



「私たちは、梨作りで埼玉県内トップを目指している」と熱く語るのは、久喜市で梨園を営む(株)びかいちファームの代表、鈴木精一さん(63)と正世さん(60)夫妻。埼玉の梨が年々衰退している現状を危惧し、2年前の7月に法人化した。始めは梨畑もなく機械

鈴木 精一さん、正世さん(久喜市)



びかいちファーム代表の精一さん(左)、正世さん夫妻

や作業場もないゼロからのスタートだった。JA(南彩で開催している「新規ナシ栽培塾」)に出合い、ノウハウや梨栽培の基礎を学んだ。「梨栽培サポーター制度」にも積極的に参加し、県内の梨農家宅へ出向いて技術を磨き、昨年3月には埼玉

農園の管理や運営のサポートなども行っており、離農に歯止めをかけるための活動も行っている。今後は、行政とも連携し、現在行っている梨作りの再生活動をモデル化させ、ブドウや栗、それらの加工品の販売など事業の拡大を行いつつ、さまざまな人たちと連携して地域農業を支える農業体組織を作り上げることが目指している。

精一さんは「私たちの取り組みを県のモデルとして確立し、新規就農者やこれから意欲を持って梨栽培に取り組む人たちへの道しるべになりたい。おいしい魅力ある日本梨の産地を絶やさないためにも」と話した。

梨栽培の道しるべに